

名誉遠野親善大使 Salvatore Forte

サルバトーレ・フォルテ さん



写真右からフォルテさん、孫のヤコボ君、アンナ夫人

孫の代まで交流を続けようじゃないか

これまでたくさんの遠野市民と知り合い、多くの友人ができました。サレルノ市民は、遠野との交流を通して、勤勉さ、謙虚さ、礼儀正しさなど日本人の素晴らしさをたくさん学んでいます。また、家族愛や伝統文化を大切にするとところは両市民に共通している、根本的に同じ心を持っていることも実感させられました。両市の友情をさらに

深め、継続していくためには、この交流を子や孫の世代に引き継ぐことが大切だと思います。若い世代が相互に訪問する機会を増やし、交流の「キーパーソン」を育てることが未来につながるのではないのでしょうか。

来年の夏、サレルノ市民訪問団を結成して遠野を訪れる予定です。遠野の皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

サレルノとの経験をシュタイナウとも

サレルノとの交流を通じ、私たちは海外を身近に感じられるようになり、国際的な視野が広がりました。また、遠野の魅力を見直すきっかけにもなったと思います。この30年で私たちは、人は国を越えて友情を育むことができることを知りました。素晴らしい交流ができたのは、遠野を愛してくれたサレルノの皆さんと、絆を大切にす遠野市

民の深い友情にほかなりません。シュタイナウ市とも新たな交流が始まりました。サレルノから多くのことを学んだように、「グリム」という文化的共通点があるシュタイナウからも、豊かなまちづくりのヒントを得られるはずで。出会いを大切に、互いに理解し合うことを楽しみながら、一歩一歩交流を深めていきたいと思います。

姉妹都市締結30周年
サレルノ訪問団顧問

前副市長
及川 増徳 さん
(上郷町)

Masunori Oikawa



姉妹都市締結30周年
サレルノ訪問団事務局

一般財団法人
遠野市教育文化振興財団

佐々木 泰宏 さん
(土淵町)

Yasuhiro Sasaki

夢が広がる国際交流を、遠野から

姉妹都市締結30周年記念事業に携わり、サレルノと遠野の絆の深さを改めて感じさせられました。そして、国際交流には人と人のつながりこそ大切だということも学びました。

両市の交流の特徴は、あくまでも市民が主体であるということ。政治的、経済的な交流ではなく、映画「遠野物語」をきっかけにした文化的な交流だったか

らこそ、互いの心が通じ合い、深く長い国際交流に発展してきたのです。(一財)遠野市教育文化振興財団の夢は、サレルノと遠野のように、心が通う国際交流を担う人材を育成すること。まずは、子どもや若者が、気軽に異文化に触れられる環境づくりを展開したいですね。そして、サレルノとの交流をさらに盛り上げていきたいと思っています。

遠野から、世界へ

映画「遠野物語」が結んだ30年の交流から、両市民は、人は国を越えて友情を深められることを学びました。互いの歴史や文化に触れ、そこに暮らす人々のぬくもりを感じ、互いに理解し合うことで友情を育んできたのです。真の国際理解の姿が、そこにはありました。この素晴らしい交流を、次の世代にも引き継いでいきたいと思います。市は今後、市内の中高生や若者がサレルノをはじめ世界の国々を訪れる機会を積極的に設けていく予定です。広い視野と国際感覚を身に付けた「世界に羽ばたく遠野人」を育成したいのです。国際交流には夢があります。サレルノの風が海を渡って遠野に吹き渡り、私たちに多くのことを教えてくれたように。サレルノとの経験を生かし、次は世界の国々と交流の輪を広げていきたいと思います。遠野の地から、新たな風を起こす時なのです。



1_シュトラウホ市長に親書を手渡し、固い握手を交わす及川顧問 2_クリンク館長(左)の案内で、一行はグリム博物館を視察 3_牧歌的な風景が広がる同市



Germany Steinau

「グリム」が縁。
ドイツ・シュタイナウ市
を親善訪問



◎ドイツ・シュタイナウ市
ドイツ中央部のヘッセン州の都市で、人口は約1万1千人。メルヘン街道沿いの観光地として世界的に有名。

「日本のグリム」と称される佐々木喜善が生まれた本市と、グリム童話の著者であるグリム兄弟が幼少期を過ごしたドイツ・シュタイナウ市。「グリム」が縁で、両市の交流が始まりました。昨年11月に開催された遠野文化フォーラムでは、グリム記念館のクリンク館長が来遠し、文化を通じた交流を深めていくことを約束。そして今回、サレルノ訪問団の及川増徳顧問らはドイツまで足を延ばし、6月29・30日の両日にシュタイナウ市を訪問しました。本市市長の親書を手渡すと、同市のシュトラウホ市長は「今後、後にも着実に文化を通じた交流を進めていきたい。まず、互いのまちについて知り合うことから始めましょう」と歓迎。一行は中心市街地や観光名所などを視察し、8月から11月にかけて現地で開催する「遠野展」の打ち合わせも行いました。今後、本市でもシュタイナウ市の文化や歴史、グリム兄弟に関する特別展を開催していく予定です。

こだわりの逸品を紹介。 風の丘でサレルノフェア開催

合同会社グリーンケア(青笹町、荘司こずえ代表)らは6月28・29日の両日、遠野風の丘でサレルノフェアを開催しました。昨年、荘司代表がチーズ製法をサレルノ市で学んだ縁もあり、姉妹都市締結30周年に合わせて産業交流を深めよう企画。現地の優れた食品や工芸品の輸入・販売を手掛ける「ベスト・オブ・サレルノ」日本法人代表の藤原佳代さん=同市在住=と、ボランティアで日本

人の受け入れに協力しているアンナローザ・ガンビーノさん(サレルノ県庁職員)が訪れ、本場のパスタやオリーブオイル、伝統服などを販売しました。現地の職人が手作りした逸品とあって、多くの市民や観光客が買い求めフェアは大盛況。藤原代表は「遠野もサレルノも、キラリと輝く特産品がたくさんあります。その橋渡しをすることで、交流の発展に貢献できればうれしいですね」と思いを語りました。



Salerno fiera

風を起こす

Grande amicizia, anche la seconda generazione.

サレルノ市への訪問と時を同じくして、シュタイナウ市への親善訪問と、遠野風の丘でのサレルノフェアが行われました。キーマンにインタビューし、国際交流の今後を展望します。

